2025.4

車の汚れのクリーニング

KeePer技研株式会社

車の汚れ一覧		P2・3
ボディ	水シミ	P4
	水アカ	P5
	虫	P6
	鳥フン	P6
	鉄粉	P7
	ペイントミスト	P8
	松ヤニ	P8
	花粉のベトベト	P9
	花粉ジミ	P9
	石灰汚れ	P10
無塗装樹脂パーツ	ワックスかす	P10
下回り	ピッチ（タール）	P11
	雑草のこびり付き	P11
降雪地帯の汚れ	融雪剤（塩カルシウム等）	P12
	消雪パイプの錆	P12
窓ガラス	油膜	P13
	ウロコ状跡	P13
ホイール	ブレーキダスト	P14
	油汚れ	P14
エンジンルーム	エンジンルーム内の汚れ	P15
ヘッドライト	ヘッドライトの黄ばみ	P15
メッキパーツ	日本車のメッキパーツの「シミ汚れ」	P16
アルミモール	ヨーロッパ車の窓枠の「白さび」	P16
車内	シートの汚れ	P17
	日焼け止めクリーム跡	P17
その他	隙間の汚れ	P18

車の汚れ一覧

ヘッドライト

ヘッドライトの黄ばみ


P15

ヘッドライトの黄ばみは、劣化した「ハードコート」を除去する。

エンジンルーム

エンジンルーム内の汚れ


P15

油汚れに強く、すすぎ性に優れる「ホイールクリーナー」が最適。

無塗装樹脂パーツ

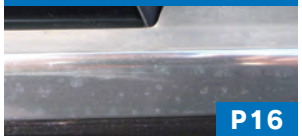
ワックスかす


P10

キーパーファイナル1、ミネラルオフの拭き残しも、同様の方法で取れます。

メッキパーツ

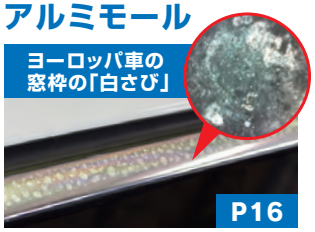
日本車のメッキパーツの「シミ汚れ」


P16

主な原因は「ミネラル汚れ」のため、「ミネラルオフ」が有効

アルミモール

ヨーロッパ車の窓枠の「白さび」


P16

黄砂（ケイ酸塩）を含んだ雨から溶け出す「アルカリ成分」が原因

ホイール

ブレーキダスト


P14

ホイールのブレーキダストには、「ブレーキダストクリーナーBDC」

油汚れ


P14

コーティングの有無で「ブレーキダストクリーナーBDC」「ホイールクリーナー」を使い分ける

下回り

ピッチ（タール）


P11

ピッチは、アスファルトのこびり付き。「タールリムーバー」でよく溶けます。

雑草のこびり付き


P11

「インセクトリムーバー」でふやかすと、簡単に取れる



窓ガラス

油膜


P13

ガラス面に付いた油膜は、「グラスポリッシャーGPⅢ」で磨き落とします。

ウロコ状跡


P13

水道水などの「ミネラル=無機質」が原因。同じ無機質のガラス面と頑固に固着

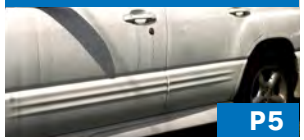
ボディ

水ジミ


P4

水ジミは、水道水、井戸水、黄砂の雨などに含まれる「ミネラル=無機質」が原因

水アカ


P5

古くなったワックスなどの有機質の汚れが原因

虫


P6

「インセクトリムーバー」でコーティングを落とさず、虫だけをふやかして取る

鳥フン


P6

「インセクトリムーバー」でふやかして、ボディを傷付けずに優しく取る

鉄粉


P7

線路や製鉄所から舞った鉄の粉が原因。空からかかるので上面に多い

ペイントミスト


P8

除去に時間がかかります。1台あたり高額の工賃がかかる

松ヤニ


P8

主成分の「ロジン」は、「内窓クリーナーまたは花粉クリーナー」に含まれるエタノールで取れる

花粉のベトベト


P9

花粉のベトベトは、含有するペクチンが原因

花粉のジミ


P9

ペクチンを塗装面に放置すると発生。取るためには「熱」がポイント

石灰汚れ


P10

石灰は「爆白ONE」。
※石灰は「お酢」で溶ける性質があるが「爆白ONE」が効率的。



車内

シートの汚れ


P17

「シートクリーナー」を使った独自な手法で、高価な機械が無用に。

日焼け止めクリーム跡


P17

白く焼き付いた日焼け止め跡には「新車クリーナー」

降雪地帯の汚れ

融雪剤(塩化カルシウム等)


P12

融雪剤(塩化カルシウムなど)は、水に溶けやすい

消雪パイプの錆


P12

消雪パイプから流れる地下水には、「鉄サビ」と「ミネラル」をよく含む

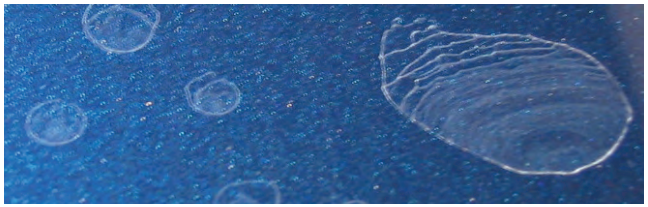
その他

隙間の汚れ


P18

パーツの隙間など、細部のクリーニングに「隙間スポンジ(カンスポ)」

ボディ 水ジミ



【汚れの解説】

- 水道水・地下水・黄砂の雨などの水滴が、車のボディの上でそのまま乾くと付く。
- 原因は、水道水などに含まれる無機質（＝ミネラル分）。
- 無機質は親水性（水を弾かない）のため、コーティングの水はじき効果を妨げる要因になる。
- 黒色など濃色車の方がよく見える。

水ジミは、水道水、井戸水、黄砂の雨などに含まれる「ミネラル＝無機質」が原因

CASE① コーティング施工車は【ミネラルオフ】

使用するケミカル・ツール

- ●ミネラルオフ
  または レジン2
- ●スポンジ赤
- ●キーパークロス

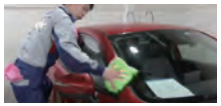


❶ 洗車後、「ミネラルオフ」を
スポンジ赤に付けて擦り落とす。



❷ 車のボディに残った「ミネラルオフ」をキーパークロスで拭き取る。

参考動画



【キーパー施工車の場合】ミネラル取り洗車

❶ 洗車時の拭き上げ時に、
極少量の「ミネラルオフ」もしくは
「レジン2※クリスタル、ダイヤ、Wダイヤの場合」を
含ませたキーパークロスで拭き上げて落とす。



参考

- 「ミネラルオフ」や「ミネラル取り洗車」は、コーティング被膜を傷めずに汚れを落とすことができる。

CASE② コーティング再施工時、コーティングしていない車は【爆ツヤ】

使用するケミカル・ツール

- ●爆ツヤ
- ●スポンジ青



❶ 洗車後、「爆ツヤ」を2～3分程度
付け置きする。



❷ スポンジ青で擦り落とす。



参考

- 「爆ツヤ」は、安全かつ、洗浄力と作業性がベストバランス。
  強く擦ってもむしろ艶が出る。

CASE③ しっかり溜まったひどい汚れは【爆白ONE】

使用するケミカル・ツール

- ●爆白ONE
- ●スポンジ青



❶ 洗車後、「爆白 ONE」を
2～3分程度付け置きする。



❷ スポンジ青で擦り落とす。



参考

- 安全かつキーパー最強のクリーナー「爆白ONE」で
  汚れをすっきり落とすことで、その後のコーティングの定着も良くする。

注意

- 他社ボディーガラスコーティングにつく頑固な水ジミは
  取りきれない場合がある。

ボディ 水アカ



【汚れの解説】

- 古くなったワックス・コーティングなどの有機質の汚れ。
- 洗車で落ちなくなったドアミラー・ドアノブなどパーツの隙間から垂れるグリスなどの黒スジも。
- 白色など淡色車の方がよく見える。

古くなったワックスなどの有機質の汚れが原因

CASE① コーティング施工車は【ミネラルオフ】

使用するケミカル・ツール

- ●ミネラルオフ
  または レジン2
- ●スポンジ赤
- ●キーパークロス

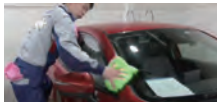


❶ 洗車後、「ミネラルオフ」を
スポンジ赤に付けて擦り落とす。



❷ 車のボディに残った「ミネラルオフ」をキーパークロスで拭き取る。

参考動画



【キーパー施工車の場合】ミネラル取り洗車

❶ 洗車時の拭き上げ時に、
極少量の「ミネラルオフ」もしくは
「レジン2※クリスタル、ダイヤ、Wダイヤの場合」を
含ませたキーパークロスで拭き上げて落とす。



参考

- 「ミネラルオフ」や「ミネラル取り洗車」は、コーティング被膜を傷めずに汚れを落とすことができる。

CASE② コーティング再施工時、コーティングしていない車は【爆ツヤ】

使用するケミカル・ツール

- ●爆ツヤ
- ●スポンジ青



❶ 洗車後、「爆ツヤ」を2～3分程度
付け置きする。



❷ スポンジ青で擦り落とす。



参考

- 「爆ツヤ」は、安全かつ、洗浄力と作業性がベストバランス。
  強く擦ってもむしろ艶が出る。

参考

- ドアノブの引っ掻き傷に埋まった汚れも落ちる。



CASE③ しっかり溜まったひどい汚れは【爆白ONE】

使用するケミカル・ツール

- ●爆白ONE
- ●スポンジ青



❶ 洗車後、「爆白 ONE」を2～3分程度付け置きする。

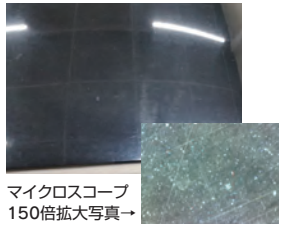
❷ スポンジ青で擦り落とす。

濃色車のひどい水アカ汚れも「爆白ONE」が有効!

❶ 洗車後、「爆白 ONE」を
2～3分程度付け置きする。

❷ スポンジ青で擦り落とす。

❸ 汚れがまだらに残っていても、
再度「爆白 ONE」でよく洗浄すれば
必ずキレイになる。



マイクロスコープ
150倍拡大写真→

参考

- 蓄積した汚れが落ちて丸裸になった
  塗装面の肌が荒れていても、
  「グラスアップゼロ」をスポンジに付けて擦ると整う。
  たいていの場合、その後のキーパーコーティングで
  十分にキレイになる。



ボディ 虫



【汚れの解説】
- 車が走行中に、飛んでいる虫が車にぶつかってこびり付く。
- 虫が飛んでいる季節（暖かい時期）に多く付く。
- そのまま長い間放置すると、虫の死骸に含まれる酸が塗装面を浸食する場合も。

「インセクトリムーバー」でコーティングを落とさず、虫だけをふやかして取る

使用するケミカル・ツール

●インセクトリムーバー
●キーパークロス または スポンジ青



CASE❶【軽い場合】

❶ 洗車前に、予め「インセクトリムーバー」をかけておくと、洗車やコーティング前処理作業で簡単に取れる。



CASE❷【ひどい場合】

❶ 洗車後に、「インセクトリムーバー」を2〜3分付け置きする。



❷ スポンジ青もしくはキーパークロスで軽く擦り落とす。



❸ それでも落ちない場合は❶❷を繰り返す。

参考
- インセクトリムーバーは、コーティングや撥水コートを落とさず、虫だけを取る。
- 窓ガラスについた虫にも有効。

ボディ 鳥フン



【汚れの解説】
- 鳥がフンを落として付く。
- 強い酸を含んでいるため、すぐに落とさないと塗装面が簡単に浸食する。

「インセクトリムーバー」でふやかして、ボディを傷付けずに優しく取る

使用するケミカル・ツール

●インセクトリムーバー
●キーパークロス または スポンジ青



❶「インセクトリムーバー」をかけて2〜3分付け置きしてから、高圧水で洗い流す。



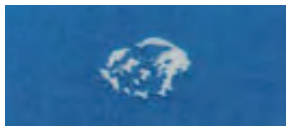
❷ スポンジ青もしくはキーパークロスで軽く擦り落とす。



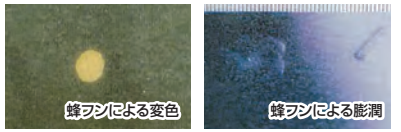
❸ それでも落ちない場合は❶❷を繰り返す。

参考
- 鳥フンは強い酸性なので、鳥フンがあった箇所の状態を見て、必要あればコーティングの部分補修をする。

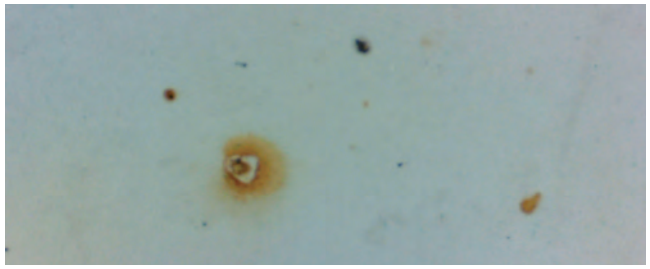
注意
- 鳥フンによる塗装面のヒビ割れは落とすことができない。



虫フンによる塗装面の変色・膨潤も落とせない。



ボディ 鉄粉



【汚れの解説】

- 鉄道や製鉄所から舞っている鉄の粉が、車のボディに乗っかかり、空気中の湿気により、錆びてこびり付く。
- 飛散した鉄粉がかかるため、ほとんどが車のボディ上面に付いている。
- 駐車環境が製鉄所付近など、ひどい場合はボディ全体にごってり付いている。
- ボディ以外の窓ガラスにも付くことがある。

線路や製鉄所から舞った鉄の粉が原因。空からかかるので上面に多い

CASE① 上面のみの軽い場合は【トラップ粘土 青】と【ピュアアップ4】

使用するケミカル・ツール

- ●トラップ粘土 青
- ●ピュアアップ4



❶ 洗車後、「トラップ粘土 青」で擦りながら、削り落とす。

※粘土は、ボディのプレスラインをまたがないようにする。

※補助剤として「ピュアアップ4」をかけておくと、
髭剃りのシェービングフォームのような役割で、安全かつ作業効率が上がる。



参考

- 「トラップ粘土」による物理的な洗浄で、鉄粉以外のザラザラも取れる。

CASE② ボディ全体のごってり鉄粉は【アイアンイーター】からの最強【爆白ONE】

使用するケミカル・ツール

- ●アイアンイーター
- ●爆白ONE ●スポンジ青
- ●トラップ粘土 青 ●ピュアアップ4



❶ 予め、「アイアンイーター」をかけて10分程度付け置きし、水で洗い流す。
化学的な力で、鉄粉が水で流れ落ちるようになる。



❷ 「爆白 ONE」を2〜3分程度付け置きしてから、スポンジ青で擦り落とす。



❸ 少し残った鉄粉を「トラップ粘土 青」と「ピュアアップ4」で取る。



参考

- ❷がポイント、「爆白ONE」で鉄粉を他の汚れもろともできる限り落とすことで効率が良くなる。

ボディ ペイントミスト



【汚れの解説】
- 塗装作業をしている工事現場から飛散した
  ペンキのミストが降りかかる。
- 除去に時間がかかるため、
  1台あたり高額の工賃がかかる。
- 塗装業者の責任として、保険対応のケースが多い。

除去に時間がかかります。1台あたり高額の工賃がかかる

使用するケミカル・ツール

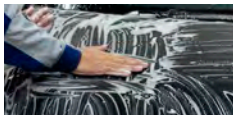
- ●トラップ粘土 青　●ピュアアップ4
- ●アクアポリッシュ2
- ●ルペスLHR12E（電動式ダブルアクションポリッシャー）
- ●低反発パフ



❶ 「トラップ粘土 青」+「ピュアアップ4」で慎重かつ丹念に除去。

※粘土は、ボディのプレスラインをまたがないようにする。

※補助剤として「ピュアアップ4」をかけておくと、
髭剃りのシェービングフォームのような役割で、安全かつ作業効率が上がる。



参考
- 慎重かつ丹念に除去する必要があるため、作業に時間がかかる。
- 窓ガラスについたペイントミストも同様の方法で除去できる。

❷ その後、塗装面に付いた「トラップ粘土 青」による微細傷を
必要に応じて、ポリッシャーによる細密研磨作業で整える。



ボディ 松ヤニ（樹液）



【汚れの解説】
- 松から樹液が垂れ落ちて付く。
- 松ヤニの主成分のロジンが固まって、
  頑固な汚れとなる。

主成分の「ロジン」は、「内窓クリーナーまたは花粉クリーナー」に含まれるエタノールで取れる

使用するケミカル・ツール

- ●内窓クリーナーまたは花粉クリーナー
- ●キーパークロス

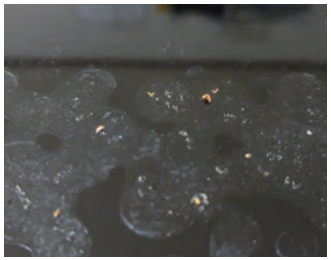


❶ 洗車後に、「内窓クリーナーまたは花粉クリーナー」を
よくスプレーしたキーパークロスで拭き取る。



参考
- ロジンは、内窓クリーナー・花粉クリーナーに含まれる
  エタノールで溶ける。
- 内窓クリーナーで落ちない場合は
  エコプラスレジンクリーナー（または326クリーナー）を使用するとより効果的。
  ※コーティング施工車は作業後コーティングメンテナンスを施す。

ボディ 花粉のベトベト



【汚れの解説】
- 花粉のベトベトの原因は、花粉に含まれるペクチンです。
- 車の塗装表面についた花粉が水に濡れると殻が割れて、中からペクチンという成分が出てきます。
- ペクチンは酸性多糖の植物に多く含まれる物質で、ジャムなどの増粘剤（粘度を増すもの）に利用されてます。

花粉のベトベトは、含有するペクチンが原因。

使用するケミカル・ツール

●花粉クリーナー
●キーパークロス



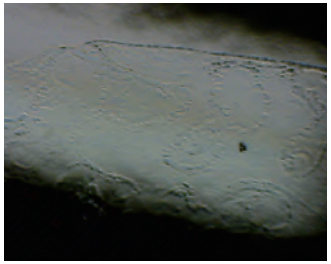
❶ 洗車後に、「花粉クリーナー」を
よくスプレーしたキーパークロスで拭き取る。





参考
- ペクチンのベトベトが、花粉クリーナーに含まれるエタノールでサラサラになる。

ボディ 花粉ジミ

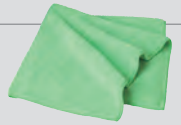


【汚れの解説】
- 花粉ジミの原因は、花粉に含まれるペクチンによる塗装の変形です。
- 車の塗装表面についたペクチンは時間とともに硬化する際に収縮する性質を持っています。その時に周辺の塗装を引っ張ってシミ跡を作ります。

ペクチンを塗装面に放置すると発生。取るためには「熱」がポイント

使用するケミカル・ツール

●お湯
●キーパークロス



CASE❶【軽い場合】

❶「お湯」で温めたキーパークロス（約 50℃）で拭き取る。



CASE❷【ひどい場合】

❶「70℃以上のお湯」をかけ続ける。
塗装面が 70℃以上の状態が 2〜3 分程度続くと消える。



参考
- もしくは、塗装面が熱くなる「夏」まで待つと消える。
- マイクロファイバークロスを敷いて、上からお湯をかけると温めやすい。

参考動画

注意
- 花粉ジミは塗装の変形であるため、研磨しても解決しません。むしろ研磨することで塗装を傷める可能性があるため、研磨は絶対にしてはいけません。

ボディ 石灰汚れ



【汚れの解説】

- 車に付く石灰は、主に炭酸カルシウム（石灰石）。
- 石灰石は、セメント工場や製鉄所などで原料として使用されており、工場から飛散した石灰石の粉末が車に降りかかることがある。
- ほおっておくと頑固にこびり付き、洗車ではなかなか落ちない。

石灰には「爆白ONE」。※石灰は「お酢」で溶ける性質があるが「爆白ONE」が効率的。

使用するケミカル・ツール

- ●爆白ONE ●スポンジ青
- ●アイアンイーター
- ●トラップ粘土 青 ●ピュアアップ4



CASE① 【石灰のみ付着している場合】

❶ 洗車後、「爆白 ONE」を2～3分程度付け置きする。



❷ スポンジ青で擦り落とす。

CASE② 【製鉄所付近など、多量の鉄粉も付着している場合】

❶ 予め、「アイアンイーター」をかけて 10 分程度付け置きし、水で洗い流す。
化学的な力で、鉄粉が水で流れ落ちるようになる。



❷ 「爆白 ONE」を2～3分程度付け置きしてから、スポンジ青で擦り落とす。



❸ 少し残った鉄粉を「トラップ粘土 青」と「ピュアアップ4」で取る。



参考

- 「爆白ONE」で、鉄粉を石灰もろともできる限り落とすことで効率が良くなる。

無塗装樹脂パーツ ワックスかす



【汚れの解説】

- ワックスやポリマーコーティング剤が付いて、そのまま放置すると白く残る。
- キーパーファイナル1やミネラルオフも、長期間放置すると拭き取れなくなる場合がある。

キーパーファイナル１、ミネラルオフの拭き残しも、同様の方法で取れます。

使用するケミカル・ツール

- ●ベストブラック
- ●爆ツヤまたは 爆白ONE
- ●スポンジ青



CASE①

❶ 洗車後に、「ベストブラック」を、水を多く含ませたスポンジ青に付けて擦り落とす。



❷ 乾く前によく水で洗い流す。



注意

- 乾いてしまうと「ベストブラック」が白く残る場合がある。白く残った場合は、再度❶から作業する。

CASE② 【コーティング施工をする場合】

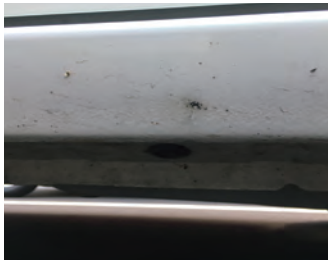
❶ コーティング前処理工程の「爆ツヤ」もしくは「爆白 ONE」で除去。



参考

- 仕上げはコーティング剤「ベストブラック2」で保護。

下回り ピッチ（タール）



【汚れの解説】
- 車が走行中に、道路のアスファルトが跳ね上がって、車にこびり付く。
- タイヤによって跳ね上がるので、タイヤハウス付近の塗装面に多い。
- 舗装直後や、夏季の熱くなったアスファルトを走ると付き易い。

ピッチは、アスファルトのこびり付き。「タールリムーバー」でよく溶けます。

使用するケミカル・ツール

●タールリムーバー
●キーパークロス または スポンジ青



CASE❶【軽い場合】

❶ 洗車前に、予め「タールリムーバー」をかけておくと、洗車やコーティング前処理作業で簡単に取れる。



CASE❷【ひどい場合】

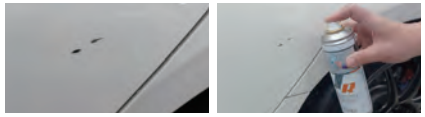
❶ 洗車後に、「タールリムーバー」をかけて2〜3分付け置きする。



❷ スポンジ青もしくはキーパークロスで軽く擦り取る。

❸ それでも落ちない場合は❶❷を繰り返す。

参考
- タイヤカスの汚れも同様の方法で落ちる。



下回り 雑草のこびり付き



【汚れの解説】
- 車が走行中に、路肩の雑草が跳ね上がって、車にこびり付く。
- タイヤによって跳ね上がるので、タイヤハウス付近の塗装面に多い。
- 暖かい時期など、雑草の多い季節に付き易い。

「インセクトリムーバー」でふやかすと、簡単に取れる

使用するケミカル・ツール

●インセクトリムーバー
●キーパークロス または スポンジ青



CASE❶【軽い場合】

❶ 洗車前に、予め「インセクトリムーバー」をかけておくと、洗車やコーティング前処理作業で取れる。



CASE❷【ひどい場合】

❶ 洗車後に、「インセクトリムーバー」をかけて2〜3分付け置きする。



❷ スポンジ青もしくはキーパークロスで軽く擦り取る。

❸ それでも落ちない場合は❶❷を繰り返す。

降雪地帯の汚れ 融雪剤(塩化カルシウム等)



【汚れの解説】
- 降雪時期に、道路にまかれる融雪剤が 跳ね上がって車にこびり付く。
- 融雪剤の主成分は「塩(塩化カルシウム、塩化ナトリウムなど)」。
- 「塩=無機質」のため、頑固にこびり付くと、コーティングの水はじきの邪魔になる。

融雪剤(塩化カルシウム等)は、水に溶けやすいため「高圧水」と「ブレーキダストBDC」で落とす。

使用するケミカル・ツール
- ●ブレーキダストクリーナー(B.D.C)
  ●下回りスプレー容器冬汚れ専用
- ●ミネラルオフ または レジン2
  ●キーパークロス　●スポンジ赤



❶ 融雪剤は水に溶けやすいため、「高圧水」をかけ続けて落とす。





参考
- 補助剤として、事前に「ブレーキダストクリーナー(BDC)」をたっぷりかけておくと、融雪剤と一緒に跳ね上がって付いた汚れ(泥や鉄粉など)がよく落ちる。

【コーティングの水ハジキが戻らない場合は「ミネラルオフ」「ミネラル取り洗車」】

❶ 上記の作業後、「ミネラルオフ」をスポンジ赤に付けて擦り落とす。



❷ 車のボディに残った「ミネラルオフ」をキーパークロスで拭き取る。



参考
- 【キーパー施工車の場合】ミネラル取り洗車でも水ハジキが戻ります。
  洗車後の拭き上げ時に、極少量の「ミネラルオフ」もしくは「レジン2※クリスタル、ダイヤ、Wダイヤの場合」を含ませたキーパークロスで拭き上げて落とす。

降雪地帯の汚れ 消雪パイプの錆



【汚れの解説】
- 降雪地域で、道路で噴水されている消雪用の地下水が車にかかって汚れとなる。
- 地下水に錆が含まれており、その錆が下回りに頑固にこびり付いて茶色くなる。
- 多量に蓄積し続けると、錆汚れだけでなく、地下水に含まれる汚れが頑固な水アカとなる。

消雪パイプから流れる地下水には、「鉄サビ」と「ミネラル」をよく含む

使用するケミカル・ツール
- ●W.D.C. 消雪パイプ錆クリーナー
  ●蓄圧式スプレー容器
- ●爆白 ONE
  ●キーパークロス



CASE❶【軽い場合】

❶ 洗車後、「W.D.C. 消雪パイプ錆クリーナー」を10分以上付け置きする。



❷ キーパークロスで擦りながら、鉄サビを水で洗い流す。



CASE❷【ひどい場合】

❶ 上記の「W.D.C. 消雪パイプ錆クリーナー」の作業の後に、「爆白 ONE」を塗って、キーパークロスで掻き取る。



⚠ 注意
- ホイールについた鉄錆はブレーキキャリパーの亜鉛メッキ部分が変色する場合があるため、「W.D.C.消雪パイプ錆クリーナー」ではなく「ブレーキダストクリーナー(BDC)」を使用する。

窓ガラス 油膜



【汚れの解説】
- 車の排気ガスなどが窓ガラスに蓄積し、油膜汚れになる。
- 油膜が蓄積すると視界が悪くなる。特に雨天時の視界が悪くなる。
- 「ウィンドウガラスフッ素」施工は、事前に油膜取りしないと定着できない。

ガラス面に付いた油膜は、「グラスポリッシャーGPⅢ」で磨き落とす。

使用するケミカル・ツール



- ●グラスポリッシャーGPⅢ
- ●ダイヤクロス

❶ 洗車もしくは濡れたタオルで汚れを拭き取った後スポンジをダイヤクロスで包み、「グラスポリッシャー GPⅢ」をつける



参考
- スポンジの硬い面(推奨:レジン用スポンジなど)をダイヤクロスで包む。

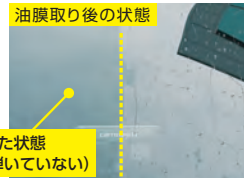
❷ 縦横に擦りながら油膜を除去する



注意
- ゴム部分、塗装面に「グラスポリッシャーGPⅢ」が付かないようにすること。プラスチックガラスやミラーには使用できない。

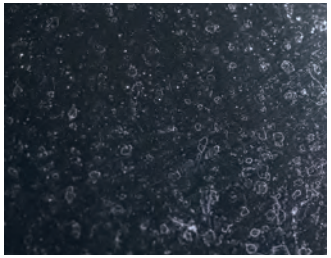
❸ 水で洗い流す。もしくは濡れたタオルで拭き取り、油膜が取れたか確認し、水滴を拭き取る。





参考
- 濡れタオルで拭いた際、画像左側のように水が全く弾かなくなればOK

窓ガラス ウロコ状跡



【汚れの解説】
- 水道水・地下水・黄砂を含んだ雨などの水滴が、窓ガラスの上で乾くと付き、何度も繰り返す内にウロコ状のシミ跡になる。
- 原因は、水道水などに含まれる無機質(＝ミネラル分)。
- 窓ガラスは無機質のため、同じ無機質の汚れが頑固に固着してしまう。

水道水などの「ミネラル＝無機質」が原因。同じ無機質のガラス面と頑固に固着

使用するケミカル・ツール



- ●ウロコ取りセット
  (グラスポリッシャーGPⅢ+コーナーリムーバー+コーナーリムーバー用あて木)
- ●ダイヤクロス
- ●ルペスLHR12E(電動式ダブルアクションポリッシャー)
- ●低反発パフ

❶ 「ウロコ取りセット(グラスポリッシャー GPⅢ+コーナーリムーバー)」を使った研磨作業で落とす。



注意
- ひび割れ、飛び石、リペア跡のある窓ガラスは作業不可。

※詳細は「窓ガラスのウロコ取り作業マニュアル」を参考。 こちらからご覧いただけます →

参考動画

ホイール ブレーキダスト



【汚れの解説】
- タイヤのブレーキパッドから飛散した鉄の粉が、ホイールにこびり付く。
- ベンツ、BMWなど特に外車のブレーキパッドから鉄の粉が飛散する。

ホイールのブレーキダストには、「ブレーキダストクリーナーBDC」

使用するケミカル・ツール
- ブレーキダストクリーナーB.D.C
- ブレーキダストクリーナー用スプレー容器
- ホイール用スポンジ



CASE1【軽い場合】

1. 「ブレーキダストクリーナー BDC」をスプレーし、2～3分放置する。



2. 高圧洗浄で洗い流す。



参考
- コーティングを落とさないので、コーティング施工車にも対応。

CASE2【ひどい場合】

1. 高圧洗浄後、「ブレーキダストクリーナー BDC」をスプレーし、2～3分放置する。



2. ホイールスポンジで擦り落とす。



注意
- 「アイアンイーター」は、ブレーキダストを落とせるが、キャリパー(亜鉛メッキ)を変色させる可能性があるので使用しない。
- 完全に焼きついた汚れは落とせない。

ホイール 油汚れ



【汚れの解説】
- 排気ガスやアスファルトからの油分が、ホイールに蓄積して頑固な汚れになる。
- 目に見えなくても、油汚れは付いていることがあるので、コーティングを施工する時は必ず専用クリーナーを使って油汚れを落とす。

コーティングの有無で「ブレーキダストクリーナーBDC」「ホイールクリーナー」を使い分ける

使用するケミカル・ツール
- ブレーキダストクリーナーB.D.C
  または ホイールクリーナー
- ブレーキダストクリーナー用スプレー容器
- ホイール用スポンジ



CASE1【コーティングが施工されているホイール】

1. 「ブレーキダストクリーナーBDC」をスプレーし、ホイールスポンジで擦り落とす。



CASE2【コーティングが施工されていないホイール】

1. 「ホイールクリーナー」をスプレーし、ホイールスポンジで擦り落とす。



参考
- ホイールクリーナーは古くなったコーティングも落ちるので、コーティング前処理はホイールクリーナーを使用する。
- ホイールの洗浄後は乾く前にすすぐ。(汚れが流れ落ち易く、効率が良い。)

注意
- 完全に焼きついた汚れは落とせない。

エンジンルーム エンジンルーム内の汚れ



【汚れの解説】

- エンジンルーム内は、多量のホコリと油汚れ。
- 車によって多量の水がかかると危険なパーツが存在する。

油汚れに強く、すすぎ性に優れる「ホイールクリーナー」が最適。

使用するケミカル・ツール

- ホイールクリーナー
- キーパークロス
- ホイール用スポンジ



❶「ホイールクリーナー」をキーパークロスに適量付けて、汚れを拭き取る。





参考

- 汚れがひどい場合は、ホイールクリーナーを付けたホイール用スポンジで擦ると効率的。

❷ 別の、水で湿らせたキーパークロスで、パーツに残ったクリーナーを拭く（すすぐ）。



ヘッドライト ヘッドライトの黄ばみ



【汚れの解説】

- ヘッドライトは、ポリカーボネートというプラスチック素材のレンズが使用されている。
- そのポリカーボネートの表面は「ハードコート」で保護してある。
- ”ヘッドライトの黄ばみ”は、「ハードコート」が紫外線や熱で経年劣化したもの。

ヘッドライトの黄ばみは、劣化した「ハードコート」を除去する。

使用するケミカル・ツール

- 「ヘッドライトクリーン&プロテクト作業マニュアル」を参照

❶「耐水ペーパー」を使った作業で、劣化したハードコートを落としポリッシュで表面を整える。



参考

- 仕上げはコーティング剤「ポリカコート」で保護。

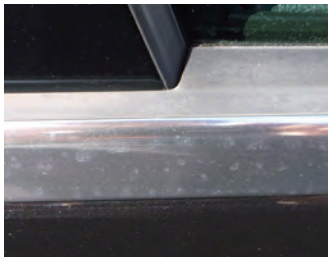
注意

- 軽度なヘッドライトの黄ばみは「爆白ONE」でも一見キレイに落ちるが、劣化したハードコートが残っていると早期に黄ばみが再発する。

※詳細は「ヘッドライトクリーン&プロテクト作業マニュアル」を参考。

こちらから
ご覧いただけます →

メッキパーツ　日本車のメッキパーツの「シミ汚れ」



【汚れの解説】

- 日本車の窓枠やバンパーにある、メッキパーツのシミ汚れは、主な原因が「水ジミ」と同じく水道水などに含まれる「無機物＝ミネラル分」。
- メッキパーツは日本車に多い。ヨーロッパ車の窓枠はメッキでなくアルミ合金を採用。

主な原因は「ミネラル汚れ」のため、「ミネラルオフ」が有効

使用するケミカル・ツール

- ●ミネラルオフ
- ●スポンジ赤
- ●キーパークロス



❶ 洗車後、「ミネラルオフ」をスポンジ赤に付けて擦り落とす。



参考
- 汚れが頑固な場合は、再度「ミネラルオフ」を付けて擦り込みながら除去する。

注意
- メッキが剥がれる恐れがあるため、強く擦らない。同様の理由から、掻き取り効果の強いマイクロファイバークロスに「ミネラルオフ」を付けて擦らない。
- ゴールドメッキのシミ汚れを除去した際、ゴールド感が損なわれる（シルバーに近づく）場合がある。

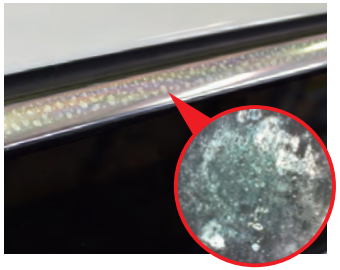
❷ 車のボディに残った「ミネラルオフ」をキーパークロスで拭き取る。



注意
- 隙間に「ミネラルオフ」が残っていないか確認する。

※詳細は「メッキクリーニング作業マニュアル」を参考。
こちらから
ご覧いただけます →

アルミモール　ヨーロッパ車の窓枠の「白さび」



【汚れの解説】

- 黄砂を含んだ雨（アルカリ性の雨）によって、アルミ合金（表面アルマイト処理）が白く錆びる。
- アルミ合金はベンツ・BMWなどヨーロッパ車の窓枠に採用されている。
- ヨーロッパ車のルーフレールや、日本車の一部のルーフレールもアルミ合金で出来ている。

黄砂（ケイ酸塩）を含んだ雨から溶け出す「アルカリ成分」が原因

使用するケミカル・ツール

- ●モールクリーンシート
- ●ベースポリッシュ または ミラーポリッシュ
- ●アクアポリシュ2



❶ 「モールクリーンシート」を使った作業で、表面の白さびを慎重に磨き落とし、ポリッシュで表面を整える。



参考
- 仕上げはコーティング剤「アルカリブロックKeePer」で保護。

注意
- 『ヨーロッパ車の金属モール（アルミ合金）専用。』カラー塗装されたモールや、日本車などのメッキモールには施工しない。

※詳細は「白サビ取り作業マニュアル」を参考。
難易度が高い作業のため注意。
こちらから
ご覧いただけます →

車　内　シートの汚れ



【汚れの解説】
- シートの汚れには、こぼした飲食物などによるシミ跡がある。
- 蓄積した皮脂汚れによって、全体的に汚れてる場合もある。

「シートクリーナー」を使った独自な手法で、高価な機械が無用に。

使用するケミカル・ツール

●シートクリーナー（布・革シート対応）
●シート用ブラシ
●快洗タオル



❶「シートクリーナー」をシートにスプレーし、「シート用ブラシ」で優しくブラッシング。



❷ ブラッシングした箇所に、少量の水をスプレーする。



❸「シート用ブラシ」に快洗タオルを巻き付けて、面を替えながら汚れが付かなくなるまで擦る。



参考
- 汚れがひどい場合は、再度シートクリーナーをスプレーから繰り返す。
- 作業後、エアコンを入れておくと早く乾燥する。

注意
- 稀にある水に濡らしてはいけないシート（各車の取扱説明書を参照）には作業できない。

車　内　日焼け止めクリーム跡



【汚れの解説】
- 日焼け止めが車内プラスチックパーツに触れると白い跡が付く。
- 白い跡の原因は、紫外線散乱剤（酸化チタン）が油性成分と混ざってこびり付いた跡
- そのまま時間が経つと、白い跡が拭き取れなくなる。

白く焼き付いた日焼け止め跡には「新車クリーナー」

使用するケミカル・ツール

●新車クリーナー
●キーパークロス



❶「新車クリーナー」を含ませたキーパークロスで拭き取る。



参考
- 新車クリーナーで油性成分が崩れて、白い日焼け止め跡が容易に拭き取れるようになる。

その他 隙間の汚れ

隙間スポンジ（カンスポ）

パーツの隙間など、細部のクリーニングに



メッシュグリル等の
クリーニング



ホイールのナット周りの
クリーニング



ワイパーの付け根の
クリーニング



リアハッチを開けた時の
隙間のクリーニング



ドアノブなどに残った
クリーナーの除去



給油口の蓋を開けた時の
クリーニング



エアコンの吹き出し口など
車内のいろんな隙間の埃とりに



エンブレムやパーツの
隙間の汚れは、カンスポに
爆白ををつけ擦ると効果的。

参考

- 隙間スポンジ（カンスポ）は、樹脂パーツのグリル部分など、細部のコーティング塗布にも活用できる。